

令和6年度 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムを考える研修会
グループワーク佐久圏域の精神保健福祉システムのリフォーム 個人用ワークシート

佐久大学人間福祉学部 江間由紀夫

佐久圏域の精神保健福祉システムを一軒の家と考えてみよう！



「にも包括」がわかりにくいのは、どこから手をつけて良いのか見えてこないということも大きいようです。そこでこのグループワークでは、「にも包括」を地域のリフォームに例えてみる方法をとってみたいと思います。

＜考え方＞

現在の佐久地域の精神保健福祉システムを一軒の家と考えたらどのような
 なるでしょうか？

例えば...

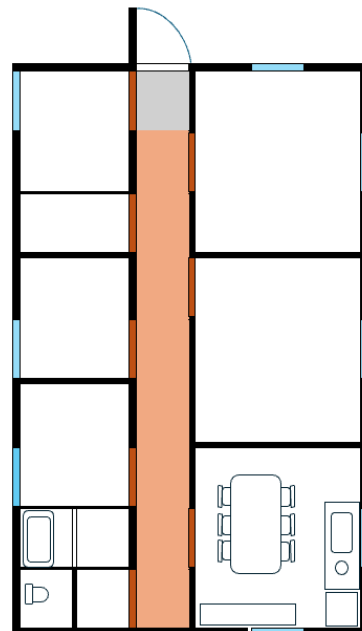
- ・基礎（地域社会の理解、受け入れ）
- ・柱（システムの理念）
- ・屋根、外壁（システムを守るもの）
- ・玄関（システムの入り口）
- ・各部屋（各種の福祉サービス等）
- ・廊下（人やサービスの移動経路）
- ・居間（みんなが集まれる場所、様々な意見が言える場所）
- ・電気、ガス、水道と水回り（生活する上で必要な資源）
- ・ドア、窓、テレビや電話など（外からの情報の入り口）

…こんなふうを考えてみるができます。

＜グループワーク＞

まずは地域の精神保健福祉システムを家に例えてみるアイデアを下の表に

書き込んでみてください。次に右の間取り図のようなものでもいいですし、理想の家の外観図でも構いませんので、裏面を使ってその家の姿を描いてみましょう。このワークシートは、グループの作業に入る前に個別でアイデアを練るために使ってもいいし、グループで話し合ってきたアイデアを書き留めるために使っても構いません。各グループでやりやすい形で進めてください。グループで考えた家については、模造紙を用意しますのでそちらに自由に描き出してください。

[illegible]

